俳業
西鶴
源氏
十五篇
種彦作
国貞画

とりのうみ

柳亭種彦作

歌川國貞画

仙宿堂蔵

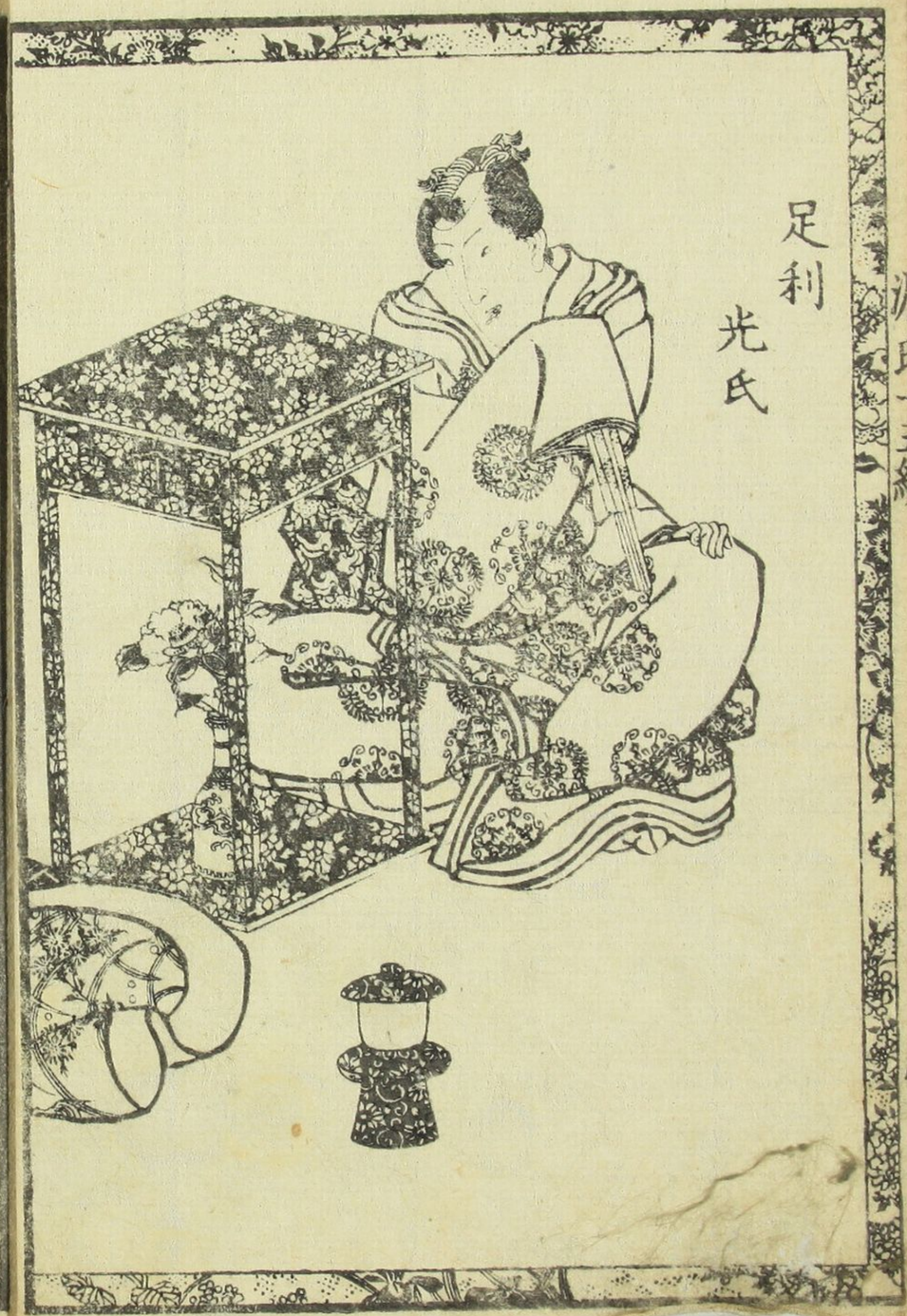
仙宿堂製

山崎屋四郎

田舍源氏 十五編 上冊

倦ぬ物は菜汁月夜の黒小袖忠臣蔵は源氏なれども。玉味噌でも菜汁を喰ぬ。忠臣蔵も下ぶかくなると猪のうさぎよりは人が逃出せば鉄炮場。定九郎の名が付いても黒羽二重も赤穂は劣れり。あの源氏もその類ぬ。傍紫の和る春雨うりの夢の應仁記の隠れ蓑仕立ひげ〜は七年前。新いときどもは洞の艶るき田舍織。まして紅の吉春とかり彼紫の色もあせ。そろく筋のきれかゝると十五編まで絶發行色紙よりまて発句の贈答をも遠ひよ揚ても法ぢ褄。艶書文を片言よ解分ぬ赤だゝる黒小袖なも及ぬこゝら。是うらもとて〜季がかゝるいつ夏月夜よ須ヲの巻。明石縮の裏りのふ移らぬ軽く業も走らん。ちとあるぢやと衿垢の殆をも為さもその低おきろ

柳亭種彦

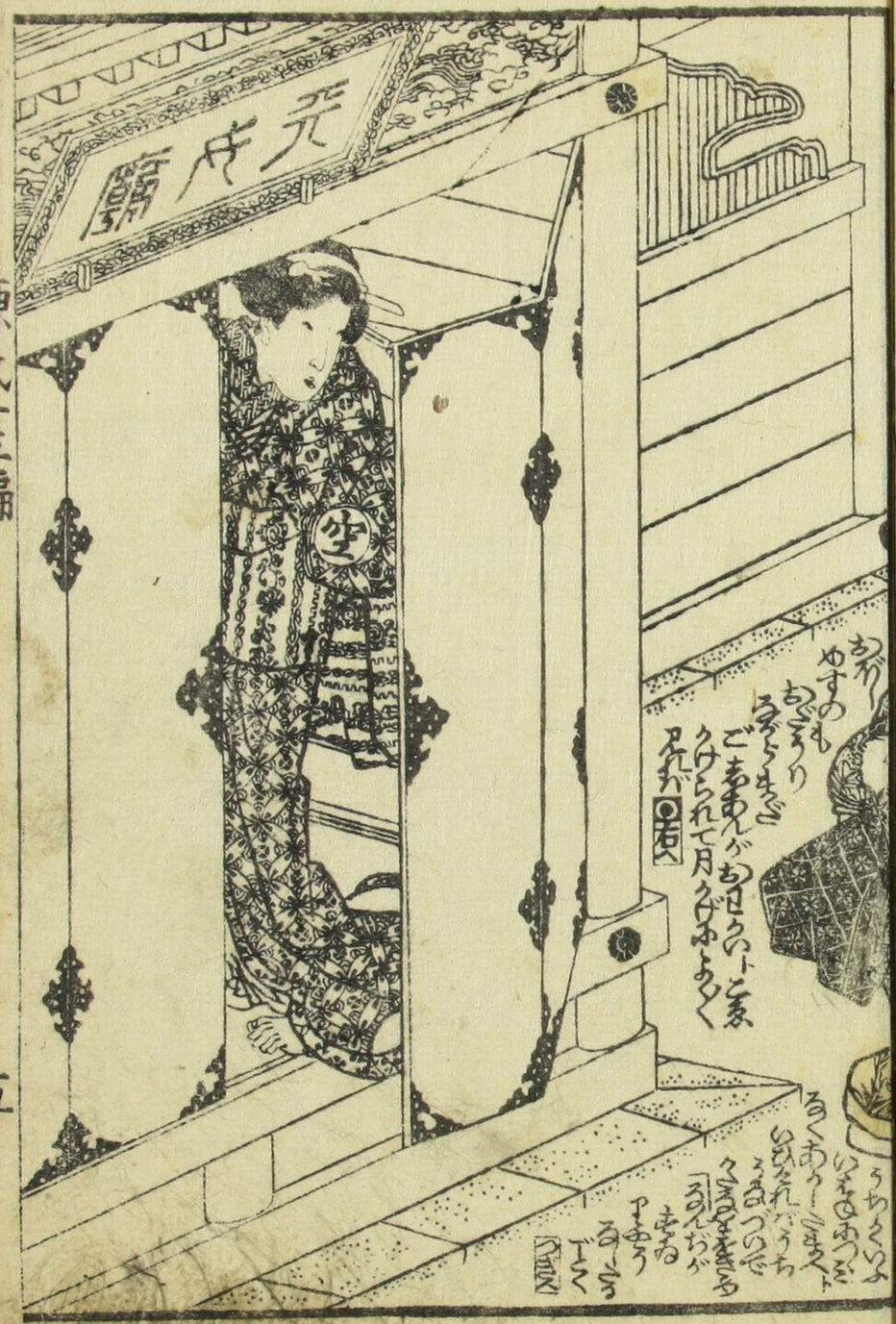


足利
光氏

ひかりふく袖と
ぬるるをも
ひくとをしみる
まゝにつけても

ふけるろ
つゝみへくて
まくせとも
ゆめのあく
はゝそともうく

桂樹
瘡


元氏廟
空

川
山石

國貞画 種彦作

滝澤馬琴著

迎福南鐵録

一名相宅手引草　全部五冊　近刻

右同著

雅俗百傳奇

大本全五冊繪入　平假名附　近刻

女消息往来

画入全一冊

暦日講釋　全一冊

俳諧今四歌仙　全一冊

梅室　禾木　桐雨　小圃　四大人の作　正風の俳諧の流行を　ふかくまなびの書なり

卜子先生著

大全書状案文 [illegible]

消息往来詳註 高井蘭山述 全一冊

消息往来世に行るゝと雖も初学の人の解しがたきもの多し故に今回て字義を明らかに初学の為にあらんと欲して

隅田川西岸賢北斎筆 袋入 絵本 全三冊

江戸名所東鑑 蕙齋筆 同 全三冊

江戸名所物見丘清長筆 同 全二冊

合刻 壽福三世相大鑑 全二冊

東海道五十三次花の都路 渚大人 同 狂歌 全三冊

拳獨秘言古 中本 袋入一冊 山櫻連々逸軒揺冊作

戯場顕微鏡 黙々漁隠作 上帙二冊 下帙二冊

教真草消息往来 全一冊 絵図註入

田舍源氏錦繪 歌川國貞画

前北齊為一翁画 江の島大山往来雙六 柳亭撰

同翁画 東海道五十三次錦繪 中奉書八ッ切り

考訂大和詞 柳亭校 弄花翁撰

歌舞妓年代記 初編拾遺 柳亭種彦編

江戸通油町地本書林 仙鶴堂 小林喜右衛門印行

十五編下

柳

一名 松ら浦島の巻

俵藤太 むかでさま

為朝 源氏

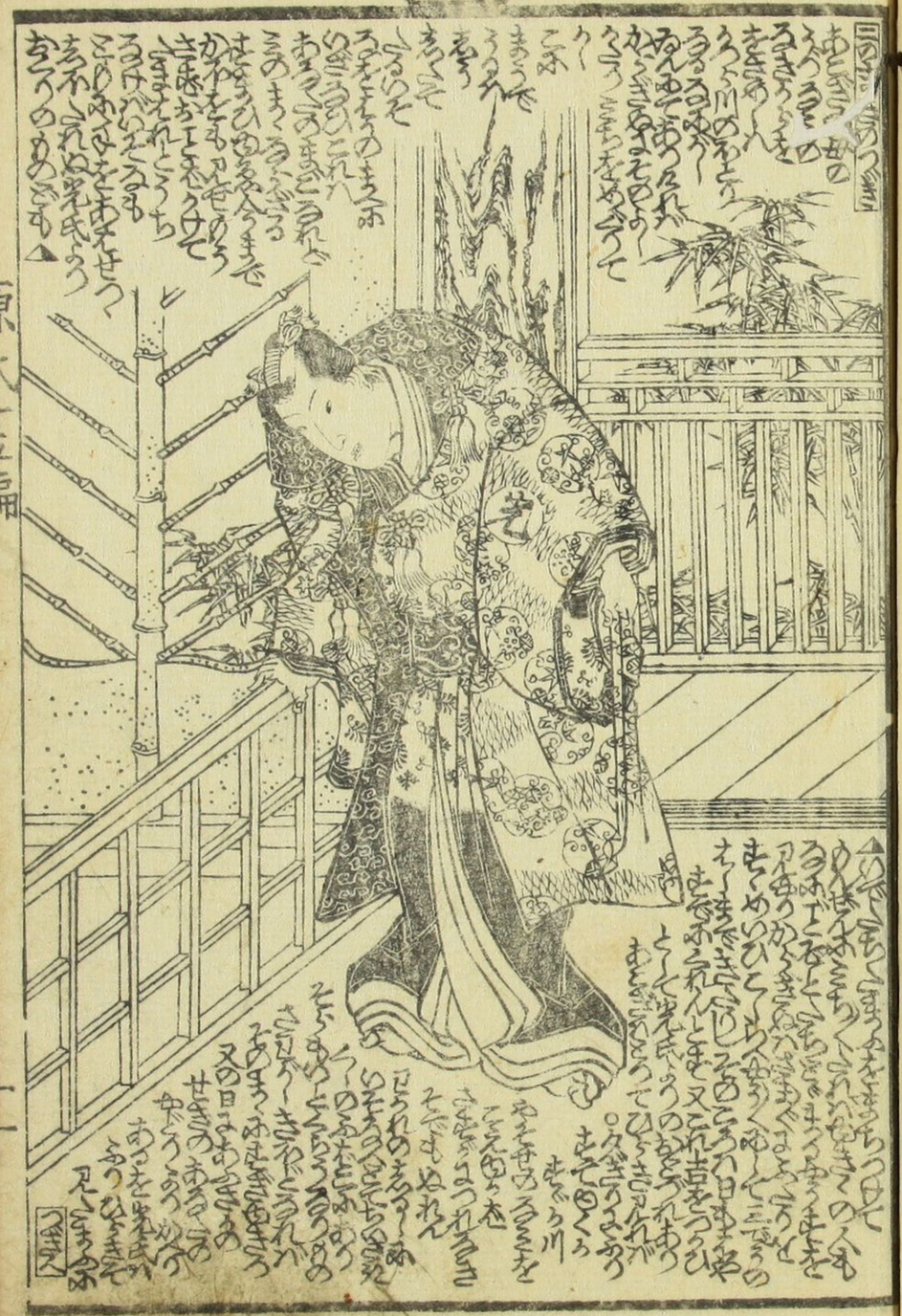
十五編 下冊

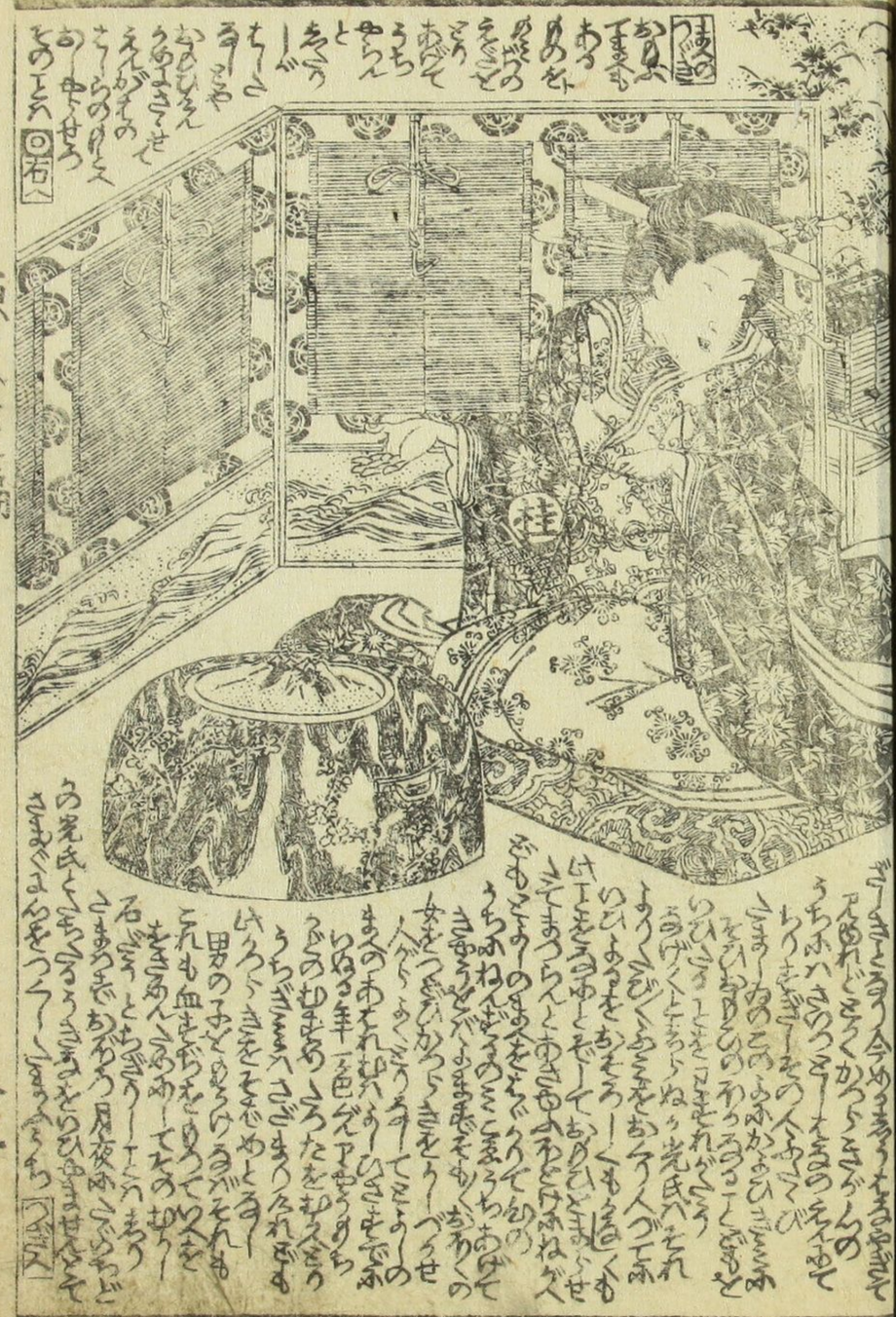
柳亭種彦作
歌川國貞画

なら見かる 海士の住家 とこるかりよ まろしれ

たゆる 松ら うら しま

鶴屋 板





つづき
こてふ
ちがめてちろくろ
こまのあ
年ふる
えさをきく
男ハとも
ありひこう
女と
あるく人
あふをも

ねこ山こけ
ふびを
ちゃ
ひまの
あゆう
ひろみ
ちゃ
馬
夜さりのつれぐさ
ひらきんこれ
ねんこあんを
夜さりしてひろまる

御免江戸暦開板所 毎年十月下旬ごろ翌初めより 浅草文庫

載陽帖 南山禅師書東海道 道法早算用道中記一枚摺

新撰 日本名所之繪 唐紙摺一枚 蘆齋鍬形紹真筆

新撰 女古狀揃図生竹 大本半紙本 両品出来 高井蘭山編撰

還魂紙料 柳亭種彦隨筆 古画入二冊 田喜養輯

芦のしおり 芭蕉翁の風分ひ用居の図絵 芭蕉翁の句分ひ用居の図絵 芭蕉翁の句分ひ用居の図絵

寶笠翁隨筆 玄同放言 初編二編共ゝ ぐろく寶物の第三編三冊近刻 六冊

右才二編三冊 実用のなりわひ物のわの 初編二編 三冊

三馬著 木校輯 開國八州もとゆひ出所 芳州集 全一冊 抜 追刻 同輯 蘭集 全三冊

歡童戯筆 遊言画手本 一名 鳥羽繪早まなび出来

廣益塵劫記 懐中早割大全 小本 一冊

新形深彩目 楷花手引糸 前編出来 前編刷 後編刷 先生 後編刷 芝居役者 飯顔早替古 後編 全一冊 五渡亭國貞画

八文字自笑評 三箇之津役者評判記 全三冊 藝品定 相撲 文筆 仕別 本来四冊

即考百鐵 全一冊 鐵箱添 紙 紙製

柳亭種彦作繪草紙三種

自問自答 戯言句合 二冊 歌川國芳狂画

浮浪さとり〜 六冊 歌川貞秀画

十四編より十七編表開板仕ル

彦紫田舎源氏 歌川國貞画

種彦校合

枕琴夢之通路 仙果作 六冊 歌川貞秀画

上州機華綾織 柳屋菊彦作 六冊 上同 画人

井筒の筋子 八百屋の娘 紫房紋多箱 仙客堂作 柏林作 六冊 歌川貞秀画

ちりめん袋入小絵ざし 種彦ゆず書 貞秀画 二冊

むら〜噺火ざとぢア 二冊

昔むかしきちちゑんさく 三冊

学かし話浦島ぢい 三冊

茶番のいろは 二冊

美艶仙女香 仙女香場所 南伝馬町三丁目西側 坂本氏

黒油美玉香 卑紛屋 藤屋嘉右衛門

書物錦繪 江戸通油町 團扇地紙問屋鶴屋喜右衛門